

(1) 地域の概要

京都駅西部エリアは、北は五条通、南はJR京都線、東は烏丸通、西は西大路通に囲まれたエリアを中心とし、その周辺にある東寺や壬生寺等までを含めたエリアで、古くは平安京の南部に位置し、南北に貫く都のメインストリート・朱雀大路を中心に、東西の市や鴻臚館などの重要な都市機能が集積した地域です。現在も、梅小路公園をはじめ、京都市中央卸売市場第一市場（以下「京都市中央市場」）や京都リサーチパーク(KRP)、商店街、文化・観光施設、寺社、大学といった多彩な地域資源が集積しており、京都の成長戦略を推進し、都市格を高めていくうえで大変重要な地域となっています。



とりわけ、梅小路公園界わいでは、京都水族館や京都鉄道博物館など、民間事業者による大きな集客施設の整備が進む一方で、京都市も、梅小路公園の拡張再整備や、京都市中央市場の施設整備及びそれに伴う「賑わいゾーン」の創出に向けた取組を進めています。さらに、JR嵯峨野線 京都・丹波口間の七条通付近への新駅設置が、平成31年春の開業に向けて動き出しています。

京都市では、「京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会」を平成26年度に設置し、その将来像や活性化に資する方策等について検討を進め、策定委員会からの答申や市民意見募集の結果を踏まえ、「京都駅西部エリア活性化将来構想」を平成27年3月に策定しました。

(2) 地域の将来像

① まちづくりの理念・基本的な考え方

「京都駅西部エリア活性化将来構想」は、民間活力と京都市の施策が融合する中で、大きく高まっている本エリアの活性化の機運を確実な流れとするために策定しました。市民、企業、関係団体が長期的な見地に立った将来ビジョンを共有し、叡智を結集して本エリアの活性化に取り組むことにより、周辺地域の活性化の動きと一体となって、20年後、30年後、さらには平安建都1300年に向けて、京都全体の大きな飛躍につなげていきます。

② 地域の目標・将来像

京都駅西部エリアは、歴史あるもの“京らしさ”と時代の最先端を行くもの“新しさ”が併存しているエリアであり、それ故、多彩な地域資源を有し、施設や団体、事業者、大学など、様々な地域主体が存在しています。こうした状況を本エリア最大のポテンシャルとして捉え、「多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち」の実現を目指します。

- 全ての居住者が安心して暮らし、文化を楽しむまち
- 新しいビジネス・活気を生み出すまち
- 幅広い世代の人々が多く集まり、楽しめるまち

(3) 地域のまちづくりの方針

○ 人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現する交通戦略

- ・ 七条通付近におけるJR新駅設置
- ・ 京都駅南口駅前広場の整備
- ・ 楽しく回遊できる歩行者環境の整備
- ・ 楽しみながら利用できる乗り物による回遊性の確保
- ・ バスによるアクセスの充実
- ・ JR西大路駅のバリアフリー化
- ・ 自転車による回遊性の向上

○ 京都ならではの地域力・市民力をいかした「まちづくりの仕組み」の構築

- ・ 市民のまちに対する愛着（シビックプライド）の向上
- ・ まちづくりの担い手の確保・リーダーの育成
- ・ エリアマネジメント組織の設立

○ 緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進

- ・ 居住環境の向上
- ・ 地域コミュニティの活性化
- ・ 空き家等の活用・流通の促進
- ・ 地域課題の解決に向けた仕組みづくり

○ 梅小路公園の拠点機能の強化

- ・ 緑豊かな憩いの空間としての利用
- ・ 総合案内所の機能強化
- ・ 広域的防災機能の維持・強化
- ・ 公園の多様な活用による賑わいの創出
- ・ 利用者が快適で楽しく過ごすための施設整備
- ・ 利用者ニーズの把握

○ 京都・日本の食文化の牽引

- ・ 「食」の流通拠点としての京都市中央市場の機能強化
- ・ 京都・日本の食文化の魅力発信
- ・ 「食」に関するイベントの開催

○ 地域に密着した商店街の活性化

- ・ 地域住民の利用促進
- ・ 空き店舗の活用による新たな事業者の誘致
- ・ 商店街と賑わいゾーン等の連携による地域経済循環モデルの構築
- ・ 商店街の雰囲気を楽しめる歩行者空間の創出
- ・ 来訪者の呼び込み
- ・ 地域コミュニティへの貢献

○ KRPを核とした新事業・ソーシャルビジネスの創出

- ・ KRPを中心とした産業クラスターの形成
- ・ 新たな事業の創出

○ 鉄道の聖地としての飛躍

- ・ 京都鉄博物館の開業
- ・ 鉄道に関する新たな魅力の創出
- ・ 市電の魅力の継承・発信
- ・ 幅広い層の来訪者の呼び込み

○ 新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承

- ・ 京都市中央市場整備に伴う「賑わいゾーン」や「有効活用地」の活用
- ・ 新たな資源の魅力発信・隠れた資源の掘り起こし
- ・ 点在する魅力のネットワーク化
- ・ 情報発信ツールの多言語化の推進
- ・ 歴史・文化資源の保存・継承
- ・ 新たな来訪者の層の発掘
- ・ 歴史・文化資源の新たな魅力創出

○ 低・未利用地(公有地・民有地問わず)の戦略的活用の促進

- ・ 地域の特性に応じた施設の誘致
- ・ 多様な活用方法の検討